作業療法学科

授業科目

作業療法学科（Occupational Therapy）

ディプロマ・ポリシー（卒業までに身につけるべき能力）

専門職としての態度・知識・技術を身につけ、対象者に寄り添い、多職種と連携し、課題を解決しようと努力し続けることができる

	講義	実習
3学年	カリキュラム・ポリシー：チームの一員として自らができることを考え、対象者に寄り添える力を育成する	
	専門基礎科目： 基礎分野演習 **専門科目：** 作業療法管理学Ⅱ 専門分野演習 臨床実習ケーススタディ	**臨床実習** **【総合臨床実習Ⅰ／9週間】** **【総合臨床実習Ⅱ／9週間】** 作業療法参加型臨床実習により評価・治療プログラムの実施、再評価を通じて作業療法士の臨床思考過程を学ぶ。
2学年	カリキュラム・ポリシー：積極的に周囲とかかわり、作業療法の専門的な視点から対象者を理解する力を育成する	
	基礎科目： コミュニケーション概論Ⅲ **専門基礎科目：** 内科学／整形外科学／神経内科学／小児科学 **専門科目：** 基礎作業学Ⅱ／作業療法評価法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ／高次神経学 相互交流演習Ⅱ／作業療法治療学・演習Ⅰ／作業療法治療学・演習Ⅱ／作業療法治療学・演習Ⅲ／作業療法治療学Ⅳ／日常生活活動論演習／義肢装具学／生活環境論／地域作業療法学／生活行為向上マネジメント演習	**評価実習** **【5週間】** 作業療法参加型臨床実習により作業療法士としての評価の立案・実施、問題点の抽出、統合と解釈等を指導者と一緒に考え、対象者の全体像を捉える。
1学年	カリキュラム・ポリシー：自主的な学習態度、専門職の理解、コミュニケーション能力を育成する	
	基礎科目： 医療倫理学／統計学／心理学概論／生物学 医学英語／コミュニケーション概論Ⅰ・Ⅱ **専門基礎科目：** 解剖学Ⅰ・Ⅱ／生理学Ⅰ・Ⅱ／運動学Ⅰ・Ⅱ／運動学実習 基礎医学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ／人間発達学／病理学概論 臨床心理学／精神医学Ⅰ・Ⅱ／総合臨床医学 リハビリテーション概論／作業療法概論Ⅰ・Ⅱ **専門科目：** 基礎作業学Ⅰ／基礎作業学演習／相互交流演習Ⅰ 作業療法管理学Ⅰ／作業療法評価法Ⅰ／日常生活活動論	**見学実習【1週間】** 通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションでの見学を行い、作業療法士の役割、他職者との連携、支援体制を学び、対象者との接し方・記録方法を体験する。 ※実習後グループワークで情報共有・情報交換を行い、報告会で発表する。

作業療法学科　教育課程

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	授業科目	授業形式	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	14	医療倫理学	講義	2	30	2	30				
			統計学	講義	2	30	2	30				
			心理学概論	講義	2	30	2	30				
			生物学	講義	2	30	2	30				
			医学英語	講義	2	30	2	30				
			コミュニケーション概論Ⅰ	講義	2	30	2	30				
			コミュニケーション概論Ⅱ	演習	1	30	1	30				
			コミュニケーション概論Ⅲ	演習	1	30			1	30		
	合計	14			14	240	13	210	1	30	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	12	解剖学Ⅰ	講義	2	30	2	30				
			解剖学Ⅱ	講義	2	30	2	30				
			生理学Ⅰ	講義	2	30	2	30				
			生理学Ⅱ	講義	2	30	2	30				
			運動学Ⅰ	講義	2	30	2	30				
			運動学Ⅱ	講義	2	30	2	30				
			運動学実習	演習	1	30	1	30				
			基礎医学演習Ⅰ	演習	1	30	1	30				
			基礎医学演習Ⅱ	演習	1	30	1	30				
			基礎医学演習Ⅲ	演習	1	30	1	30				
			人間発達学	講義	2	30	2	30				
			基礎分野演習	演習	4	120					4	120
	合計	12			22	450	18	330	0	0	4	120
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	14	病理学概論	講義	2	30	2	30				
			臨床心理学	講義	2	30	2	30				
			内科学	講義	2	30			2	30		
			整形外科学	講義	2	30			2	30		
			神経内科学	講義	2	30			2	30		
			精神医学Ⅰ	講義	2	30	2	30				
			精神医学Ⅱ	講義	2	30	2	30				
			小児科学	講義	2	30			2	30		
			総合臨床医学	講義	2	30	2	30				
	合計	14			18	270	10	150	8	120	0	0
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	4	リハビリテーション概論	講義	2	30	2	30				
			作業療法概論Ⅰ	講義	1	15	1	15				
			作業療法概論Ⅱ	講義	1	15	1	15				
	合計	4			4	60	4	60	0	0	0	0
専門分野	基礎作業療法学	5	基礎作業学Ⅰ	講義	2	30	2	30				
			基礎作業学Ⅱ	講義	2	30			2	30		
			基礎作業学演習	演習	2	60	2	60				
	合計	5			6	120	4	90	2	30	0	0
	作業療法管理学	2	作業療法管理学Ⅰ	講義	1	15	1	15				
			作業療法管理学Ⅱ	講義	1	15					1	15
	合計	2			2	30	1	15	0	0	1	15
	作業療法評価学	5	作業療法評価法Ⅰ	演習	2	60	2	60				
			作業療法評価法Ⅱ	演習	2	60			2	60		
			作業療法評価法Ⅲ	演習	2	60			2	60		
			作業療法評価法Ⅳ	演習	2	60			2	60		
	合計	5			8	240	2	60	6	180	0	0
	作業療法治療学	19	相互交流演習Ⅰ	演習	1	30	1	30				
			相互交流演習Ⅱ	演習	1	30			1	30		
			作業療法治療学Ⅰ	講義	2	30			2	30		
			作業療法治療学演習Ⅰ	演習	1	30			1	30		
			作業療法治療学Ⅱ	講義	2	30			2	30		
			作業療法治療学演習Ⅱ	演習	1	30			1	30		
			作業療法治療学Ⅲ	講義	2	30			2	30		
			作業療法治療学演習Ⅲ	演習	1	30			1	30		
			作業療法治療学Ⅳ	講義	2	30			2	30		
			日常生活活動論	講義	2	30	2	30				
			日常生活活動演習	演習	1	30			1	30		
			高次神経学	講義	2	30			2	30		
			義肢装具学	講義	2	30			2	30		
			専門分野演習	演習	4	120					4	120
	合計	19			24	510	3	60	17	330	4	120
	地域作業療法学	4	生活環境論	演習	2	60			2	60		
			地域作業療法学	講義	2	30			2	30		
			生活行為向上マネジメント演習	演習	1	30			1	30		
	合計	4			5	120	0	0	5	120	0	0
	臨床実習	22	見学実習	実習	1	45	1	45				
			評価実習	実習	5	225			5	225		
			臨床実習ケーススタディ	演習	1	30					1	30
			総合臨床実習Ⅰ	実習	9	405					9	405
			総合臨床実習Ⅱ	実習	9	405					9	405
	合計	22			25	1110	1	45	5	225	19	840
総合計					128	3150	56	1020	44	1035	28	1095

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	コミュニケーション 概論Ⅰ	庄司麻美	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	・対人援助職として望ましいコミュニケーション力を身につけるために、「みる」「きく」「つたえる」「共感する」ことの基本技能を学ぶ。 ・自己のコミュニケーションスキルを客観的に認識し、良好な対人関係を築くために必要な技能やマナーを身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・臨床で役立つコミュニケーションスキルが理解できる。 ・援助職として求められる態度について理解できる。 ・相手や場に適したコミュニケーション技法を知り、実践できる。 ・作業療法士として必要なコミュニケーション技能を習得する。 ・自己の態度を客観的に振返り、スキルアップに必要な課題に取組める。		
授業計画	専門職の知識や技術を活かすには効果的なコミュニケーションの知識及び理解が不可欠です。日々繰り返し実践することで自分に定着させましょう。 第1回：医療者になるための準備 第2回：リハビリテーションに活かすコミュニケーション論 第3回：コミュニケーションの基礎・技法① 第4回：コミュニケーションの基本的な考え方、必要とされる力 第5・6回：コミュニケーションの基礎・技法② 第7回：対人援助職としての自分づくり 第8回：相手を理解するためのポイント 第9回：多職種連携とチーム医療 第10回：チーム・アプローチの基本構造 第11回：チーム・アプローチにおける課題と対応 第12・13回：多職種連携の実践 第14・15回：まとめ・定期試験		
教科書	山口美和：第2版「PT･OTのためのコミュニケーション実践ガイド」 医学書院 2,800円＋税　　他 適宜資料配布		
参考書	内山靖：「リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論」 医歯薬出版　2,700円＋税 諏訪茂樹：第2版「対人援助とコミュニケーション」中央法規　1,900円＋税		
成績評価の方法・基準	課題提出40%、ポートフォリオ30%、筆記試験30%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	「心が通ったコミュニケーション」は、人としての在り方・考え方や、心の姿勢・成熟度がどう影響するのかを学ぶことから始まります。授業を通して自己の成長課題を見つけ、前向きに取り組みましょう。		
教員紹介	作業療法士の実務経験をもつ教員が、対人援助者になるために習得すべき医療職としての基本的態度やマナーについて講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	コミュニケーション 概論Ⅱ	庄司麻美	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	・対人援助職として望ましいコミュニケーション力を高めるために、専門職として求められるコミュニケーション能力の活用方法を学ぶ。 ・自己への理解を深め、自己管理能力を高める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・コミュニケーションの基礎を理解した上で応用的な実践ができる。 ・自己の性格や対人スキルの傾向、態度を客観的に認識できる。 ・現実的な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立て実行できる。 ・他者とのコミュニケーションの実際を文章化(記録)することができる。		
授業計画	専門職の知識や技術を実践で活かすには、効果的なコミュニケーションを場に応じて使い分けるスキルが不可欠です。コミュニケーション論Ⅰの学びで気付いた自己課題について、更に各自がスキルアップに努めましょう。 第1回：社会人のマナーとしてのコミュニケーション 第2回：自分を理解しよう 第3回：交流分析 第4回：臨床で役立つコミュニケーションスキル 第5・6回：作業療法士の観察視点 第7・8回：医療面接の在り方 第9～10回：情報を得るためのコミュニケーション 第11回：コミュニケーション力の高め方 第12・13回：対象別の伝達 第14・15回：まとめ・定期試験		
教科書	山口美和：第2版「PT･OTのためのコミュニケーション実践ガイド」 医学書院　2,800円＋税　　他　適宜資料配布		
参考書	内山靖：「リハベーシック　コミュニケーション論・多職種連携論」 医歯薬出版　2,700円＋税 諏訪茂樹：第2版「対人援助とコミュニケーション」中央法規　1,900円＋税		
成績評価の方法・基準	課題提出50%、ポートフォリオ20%、筆記試験30%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	作業療法士は対象者及び多職種と好ましい人間関係を保つために、他者や自分自身との向き合い方を丁寧に捉え考えていきます。授業を通して更なる自己の成長課題を見つけ、前向きに取り組みましょう。		
教員紹介	作業療法士の実務経験をもつ教員が、対人援助者になるために習得すべき医療職としての基本的態度やマナー、作業療法士に求められる視点について教授します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	運動学Ⅰ	清水　誠	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	四肢･体幹の解剖学上の特徴を理解し、運動のイメージとメカニズムを理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・各関節の特徴・構造を理解し、運動の特性を説明できる。 ・ローテータカフ、肩甲上腕リズムを説明できる。 ・手外在筋、手内在筋を理解し作用を知る。		
授業計画	活動は各部位の運動により構成される。観察や分析するには、正常の運動を理解することが必須です。日常的に使用される専門用語を理解し、使用できるように取り組んで下さい。 第1回：　生体力学について 第2回：　関節の構造と機能1 第3回：　関節の構造と機能2 第4回：　骨格筋の構造と機能 第5回：　運動力学（力の合成と分解等） 第6回：　運動力学（身体のてこ等） 第7回：　上肢の運動学（上肢帯） 第8回：　上肢の運動学（肩関帯） 第9回：　上肢の運動学（肩関節） 第10回：　上肢の運動学（肩関節） 第11回：　上肢の運動学（肘関節・前腕） 第12回：　上肢の運動学（肘関節・前腕） 第13回：　上肢の運動学（手関節） 第14回：　上肢の運動学（手関節） 第15回：　振返り、定期試験		
教科書	中村 隆一：「基礎運動学　第6版補訂」医歯薬出版、6,800円＋税		
参考書	坂井 健雄監：「プロメテウス　解剖学コアアトラス」医学書院、9,500円＋税 嶋田 智明監：「筋骨格系のキネシオロジー」医歯薬出版、12,000円＋税 A.I.KaPandji：「カパンジー機能解剖学　Ⅰ」医歯薬出版、8,200円＋税		
成績評価の方法・基準	小テスト（20%）＋ 定期試験（80%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	資料を配布し授業を進めます。資料以外の口頭説明に注意して下さい。 資料を参考に教科書に目を通し、授業後確認をお願いします。 授業の振返りとして、毎回小テストを行います。		
教員紹介	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、運動評価の基礎となる構造、働きについて講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	運動学Ⅱ	清水　誠	2単位・30時間

授業の概要 （授業の目的）	顔面、体幹、足部の解剖学上の特徴を理解し、運動のイメージとメカニズムを理解する。ヒトの姿勢、歩行等学習する。
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・骨盤の安定作用や、体幹筋と股関節筋の関係について理解できる。 ・膝の運動について説明できる。 ・呼吸時の胸郭運動を説明でき、呼吸筋メカニズムを説明できる。 ・安静立位時の重心･重心線、姿勢保持について理解できる。 ・正常歩行の特徴を説明できる。（小児、高齢者の歩行の特徴を含む）
授業計画	四肢･体幹の理解を深め、運動メカニズムを学びます。 姿勢や歩行について十分に理解し、国試対策としても役立ててください。 第1～2回：　股関節の解剖、運動について 第3～4回：　膝関節の解剖、運動について 第5～6回：　足関節の解剖、運動について 第7～8回：　頸部・体幹の解剖、運動について 第9回：　胸郭（呼吸運動）、顔面の解剖、運動について 第10～11回：　姿勢（座位・立位）について 第12～14回：　歩行について 第15回：　振り返り（定期試験）
教科書	中村 隆一：「基礎運動学　第6版補訂」医歯薬出版、6,800円＋税
参考書	坂井 健雄監：「プロメテウス　解剖学コアアトラス」医学書院、9,500円＋税 嶋田 智明監：「筋骨格系のキネシオロジー」医歯薬出版、12,000円＋税 A.I.KaPandji：「カパンジー機能解剖学 Ⅱ、Ⅲ」医歯薬出版、8,200円＋税
成績評価の方法・基準	小テスト（20%）＋ 定期試験（80%）
授業の留意点･授業外の学習活動など	資料を配布します。授業中口頭説明にも注意して下さい。 資料を参考に教科書に目を通し、授業後確認をお願いします。 授業の振返りとして、毎回小テストを行います。
教員紹介	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、運動評価の基礎となる構造、働きについて講義します。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	運動学実習	横濱秀征	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	人体の動作とその仕組みを理解する。 評価の基礎となる動作観察･動作分析の視点を習得する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	身体各部位の動きを説明できる。 動作観察･分析のポイントを説明できる。		
授業計画	第1回：　オリエンテーション 第2回：　肩甲骨の働き（構成体と動きの確認） 第3回：　肩関節の働き（構成体と動きの確認） 第4回：　手部の働き（構成体と動きの確認） 第5回：　脊柱の働き（構成体と動きの確認） 第6回：　股関節の働き（構成体と動きの確認） 第7回：　バランス能力について① 第8回：　バランス能力について②　※グループワーク有 第9回：　姿勢観察とは 第10回：　姿勢観察（演習） 第11回：　姿勢反応と筋活動　<u>※課題レポート説明</u> 第12回：　基本動作介助（寝返り・起き上がり） 第13回：　基本動作介助（起立・移乗） 第14回：　動作分析について 第15回：　授業内容まとめ		
教科書	症例動作分析　～動画から学ぶ姿勢と動作～ 隈元　康夫　ヒューマンプレス　6,000円+税		
参考書	中村隆一ら：基礎運動学　第6版補訂　医歯薬出版、6,800+税		
成績評価の方法・基準	課題レポート（５０％）定期試験（期末５０％：国家試験形式）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	運動学の内容が基礎となります。 必ず復習を行ってから授業に臨む事。 実技を行う際は、動きやすい服装で参加してください。		
教員紹介	回復期病棟で身体領域の作業療法を行ってきた経験を踏まえ、評価の基礎となる姿勢観察の視点を教授します。 質問等あれば、<u>h.yokohama@tama-riha.ac.jp</u>まで。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	基礎医学演習Ⅰ	岩田一鷹	1単位・30時間

授業の概要 （授業の目的）	・医学の基礎となる身体構造（骨について）学習する。 ・骨の触診技法を理解・実施できるようになる。
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・骨の名称・構造について説明できる。 ・骨の各部位を触診できる。
授業計画	第1回：　オリエンテーション（授業の進め方） 第2回：　上肢帯について 第3回：　上腕骨について 第4回：　前腕（橈骨・尺骨について） 第5回：　手根骨について 第6回：　頭蓋骨について 第7回：　椎骨について 第8回：　中間試験　※第2回～第7回までの範囲 第9回：　寛骨について 第10回：　大腿骨について 第11回：　下腿（脛骨・腓骨）について 第12回：　足部について 第13回：　足根骨について 第14回：　期末試験　※第9回～第13回までの範囲 第15回：　触診試験　※全範囲が対象
教科書	青木隆明：「機能解剖的触診技法　上肢」ﾒｼﾞｶﾙﾋﾞｭｰ社　5,700円+税 青木隆明：「機能解剖的触診技法　下肢・体幹」ﾒｼﾞｶﾙﾋﾞｭｰ社　5,700円+税
参考書	坂井 健雄監：「ﾌﾟﾛﾒﾃｳｽ 解剖学ｺｱｱﾄﾗｽ」　医学書院　9,500円+税
成績評価の方法・基準	提出物：骨スケッチ（10%）・中間試験（30%）・ 期末試験（30%）・触診試験（30%）の合計で評価します。 ※3つの試験に関して、1つでも未受験の場合は再試験対象とします。
授業の留意点・授業外の学習活動など	・初めて医学知識を学ぶ時期ですので、各自予習は必須です。 ・次回範囲の骨のスケッチを行います。※2回目より提出をしていきますので、事前にスケッチブックを準備してください。 ・触診は各自空き時間を利用して、各自で練習を行ってください。 ・実技を行う際は、動きやすい服装での参加をお願いします。
教員紹介	急性期病院・回復期病院にて主に脳血管疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患、がんの方々へ作業療法を実施してきました。我々の仕事は「人と関わって、触れてなんぼ」です。どんどん触れることに慣れてください。まずは骨の名称や部位名を覚えてから、触れ方を学んでいきましょう。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	基礎医学演習Ⅱ	岩田一鷹	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・医学の基礎となる身体構造（筋について）を学習する。 ・筋の触診技法を理解、実施できるようになる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・筋の名称・起始・停止・支配神経・運動方向について説明できる。 ・筋の各部位を触診できる。		
授業計画	第1回：　オリエンテーション 第2回：　肩甲骨に作用する筋 第3回：　肩関節に作用する筋① 第4回：　肩関節に作用する筋② 第5回：　肘関節・前腕部に作用する筋 第6回：　手関節に作用する筋 第7回：　手指に作用する筋 第8回：　中間試験　※第2回～第7回までの範囲 第9回：　臀部の筋 第10回：　大腿後面の筋 第11回：　大腿前面・内側の筋 第12回：　下腿前外側面の筋 第13回：　下腿後面の筋 第14回：　期末試験　※第9回～第13回までの範囲 第15回：　触診試験　※全範囲が対象		
教科書	青木隆明：「機能解剖的触診技法　上肢」ﾒｼﾞｶﾙﾋﾞｭｰ社　5,700円+税 青木隆明：「機能解剖的触診技法　下肢・体幹」ﾒｼﾞｶﾙﾋﾞｭｰ社　5,700円+税		
参考書	坂井 健雄監：「ﾌﾟﾛﾒﾃｳｽ 解剖学ｺｱｱﾄﾗｽ」　医学書院　9,500円+税		
成績評価の方法・基準	提出課題・小テスト：（10%）・中間試験（30%）・ 期末試験（30%）・触診試験（30%）の合計で評価します。 ※3つの試験に関して、1つでも未受験の場合は再試験対象とします。		
授業の留意点･授業外の学習活動など	・学習量が多いです。また毎回の授業開始時に小テストを実施します。 各自予習をしてください。　※範囲は事前にお伝えします。 ・毎授業に担当を割り振り、提出課題に対する発表を実施します。 事前に「ファイル」「インデックス」を準備してください。 ・触診は各自空き時間を利用して、各自で練習を行ってください。 ・実技を行う際は、動きやすい服装での参加をお願いします。		
教員紹介	救急病院・リハビリテーション専門病院にて主に脳血管疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患、がんの方々へ作業療法を実施してきました。前期で学習した骨の「どこに」筋が付着しているかを学びます。骨と同様に筋の付着部や走行を学び、筋触診を行っていきます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	基礎医学演習Ⅲ	横濱秀征	1単位・30時間

授業の概要 （授業の目的）	医学の基礎となる身体構造･作用を理解する。 各神経系の評価を理解･実施できる。
授業の到達目標 （学生の行動目標）	中枢･末梢･自律神経の構造について説明できる。 身体機能の検査方法を説明・実施できる。
授業計画	第1回：　オリエンテーション 第2回：　中枢神経系とは　　課題：中枢神経について 第3回：　中枢神経（脳）について 第4回：　中枢神経（脊髄）について 第5回：　末梢神経系とは　　課題：末梢神経について 第6回：　各末梢神経の働き 第7回：　自律神経とは　　課題：自律神経について 第8回：　運動神経の働き 第9回：　反射検査（実技） 第10回：　感覚神経の働き 第11回：　感覚検査（実技） 第12回：　脳神経系① 第13回：　脳神経系② 第14回：　運動療法とニューロリハビリテーションについて 第15回：　授業内容まとめ
教科書	病気がみえる vol.7　脳・神経　第2版 監修：尾上尚志ら　MEDIC MEDIA　3,900円+税
参考書	解剖学、生理学、運動学で使用する教科書
成績評価の方法・基準	提出課題　30%・定期試験　70%
授業の留意点･授業外の学習活動など	第2、5、7回の授業時に、課題の提出を行ってもらいます。 必ず事前学習を行ってきてください。 実技を行う際は、動きやすい服装で参加してください。
教員紹介	中枢神経疾患の治療を行ってきた経験の中で基礎となる技術を教授します。 質問等あれば、h.yokohama@tama-riha.ac.jpまで。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1年生	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	精神医学Ⅰ	中村晃一	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	精神障害（疾患）の基礎的知識を学び、理解を深め、次の段階となる「精神領域作業治療学」に繋げていく。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・メンタルヘルスの重要性を他者に説明できるようになる。 ・基礎的な精神障害（疾患）について他者に説明ができるようになる。 ・精神障害に対し、どのような治療･支援が用いられているか、他者に説明できるようになる。		
授業計画	第1回：　“メンタルヘルス”を考える 第2回：　気分障害 ① 第3回：　気分障害 ② 第4回：　統合失調症 ① 第5回：　統合失調症 ② 第6回：　統合失調症 ③ 第7回：　統合失調症 ④ 第8回：　アディクション 第9回：　パーソナリティ障害 第10回：　摂食障害 第11回：　神経症性障害 ① 第12回：　神経症性障害 ② 第13回：　小児の精神障害 第14回：　てんかん 第15回：　振り返り　定期試験		
教科書	先崎　章：PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 精神医学 羊土社、4,000円＋税		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100点満点）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	疑問に思った事があれば講義中でも挙手し質問してください。また、講義時間内に理解できなかったこと、納得できなかったことは、後回しにせず早い段階で担当教員に質問し、解決するようにしてください。		
教員紹介	精神科医療現場にて10年以上の臨床経験があり、入院治療・外来治療・訪問支援・医療観察法に基づく支援・就労支援・家族支援・地域連携等を経験している。その経験に基づき、教科書的な内容に留まることなく、実際の精神障害者像を伝えていく。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1年生	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	精神医学Ⅱ	中村晃一	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	“精神障害＝目に見えにくい障害”という特性を踏まえ、当事者を取り巻く環境を理解し、より多角的に考察する力を身につける。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・精神障害に対し、どのような治療･支援が用いられるか、他者に説明できるようになる。 ・精神障害者が使える制度や社会資源について、他者に説明できるようになる。 ・精神保健福祉法の基本的な内容について他者に説明できるようになる。
授業計画	第1回：　精神医療の現場とは 第2回：　当事者を取り巻く状況を考える ① 第3回：　当事者を取り巻く状況を考える ② 第4回：　精神保健福祉法について ① 第5回：　精神保健福祉法について ② 第6回：　精神保健福祉法について ③ 第7回：　精神領域の地域医療・支援 ① 第8回：　精神領域の地域医療・支援 ② 第9回：　精神科に関わる他職種の仕事 ① 第10回：　精神科に関わる他職種の仕事 ② 第11回：　薬物療法 第12回：　精神領域で用いられる療法・手法 ① 第13回：　精神領域で用いられる療法・手法 ② 第14回：　医療観察法 第15回：　振り返り　定期試験
教科書	伊藤 千尋：「生活･医療･福祉制度のすべてQ&A」第11版 萌文社、2,000円＋税
参考書	先崎　章：PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 精神医学 羊土社、4,000円＋税
成績評価の方法・基準	筆記試験（100点満点）。
授業の留意点･授業外の学習活動など	疑問に思った事があれば講義中でも挙手し質問してください。また、講義時間内に理解できなかったこと、納得できなかったことは、後回しにせず早い段階で担当教員に質問し、解決するようにしてください。
教員紹介	精神科医療現場にて10年以上の臨床経験があり、入院治療・外来治療・訪問支援・医療観察法に基づく支援・就労支援・家族支援・地域連携等を経験している。その経験に基づき、基本的な支援方法のみならず、事例に基づき現実的な支援に繋がるノウハウを伝えていく。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1年生	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	リハビリテーション概論	清水　誠 理学療法・言語聴覚・介護福祉学科教員	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	リハビリテーションの概念や考え方、他職者との連携を構築するためにリハビリテーション関連職種について学ぶ。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・リハビリテーションの概念や多職者連携について理解できる。 ・リハビリテーション関連用語を学び、理解･説明できる。 ・リハ関連職種であるＰＴ、ＳＴの働きを、理解･説明できる。		
授業計画	第1回：　リハビリテーション概論　① 第2回：　〃　② 第3回：　理学療法とは 第4回：　運動療法① 第5回：　運動療法② 第6回：　物理療法 第7回：　言語聴覚療法および言語聴覚士法について 第8回：　言語聴覚士の職域について 第9回：　失語症患者への関わり方と連携業務について 第10回：　摂食嚥下障害患者への関わり方と連携業務について 第11回：　介護福祉及び介護福祉法、介護福祉士の職域について 第12回：　介護福祉士と地域連携について 第13回：　介護福祉士と高齢者との関わりについて 第14回：　看護師及び看護師法について 第15回：　看護師の職域・連携について ※授業の順番は、変更する場合があります。		
教科書	適宜資料を配布		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績評価の方法・基準	それぞれの講義でレポート課題を出します。 （それぞれのレポート点を合算し100%とします。）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	他職種を理解することで、作業療法士の特性や役割を知ることにつながります。今や対象者支援に多職種連携は必須です。今後の臨床に役立てていきましょう。		
教員紹介	各領域の臨床に携わってきた各学科教員が、現場の経験や知識を織り交ぜながら授業をおこないます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	作業療法概論Ⅰ	庄司麻美	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	作業療法士になるために、作業療法のはじまりから今日までを知り、役割、制度、業務内容、作業療法の概要についての基礎知識を学ぶ。 リハビリテーションにおける作業療法士の役割、実施過程を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・作業療法の歴史、成り立ちが理解できる。 ・作業療法の定義、作業療法の過程について説明できる。 ・リハビリテーションにおける作業療法の役割が説明できる。 ・チームアプローチの必要性について説明できる。 ・対象者を捉えるための「人―環境―作業」の関連性について理解できる。		
授業計画	作業療法の基礎となる歴史・概念を知り、作業療法士としての資質と適正について学びます。学ぶにあたって必要とされる一般基礎知識、作業療法過程の概要を理解し、チーム連携の必要性を学びます。 第1回：　作業療法士という専門職の概要 第2回：　作業療法の過程 第3回：　作業療法の歴史・定義 第4回：　健康と障害の概念と分類 第5回：　作業療法部門の管理・運営 第6回：　作業療法士に求められる資質と倫理 第7回：　作業療法の理論 第8回：　作業療法士の知識と技能		
教科書	齋藤さわ子：「作業療法士になろう！」青弓社 1,600円＋税 二木淑子他：第4版「標準作業療法学専門分野　作業療法概論」 医学書院 4,000円＋税		
参考書	吉川ひろみ：「作業療法の話をしよう」医学書院 3,600円＋税 葉山靖明：「だから、作業療法が大好きです」2,000円+税		
成績評価の方法・基準	課題提出80%、小テスト20%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	作業療法士に必要なことは、知識・技術・態度の3つを養うことです。 講義を通し、作業療法士としての基盤づくりをしましょう。		
教員紹介	作業療法士の実務経験をもつ教員が、作業療法士になるために必要な基礎知識について講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	作業療法概論Ⅱ	鎌田小百合	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	作業療法の概要を理解し、作業療法を学ぶ上での指針を持つ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・作業療法の領域と対象について説明できる。 ・作業療法の教育体系について説明できる。		
授業計画	第1回：　作業療法の動向、生涯学習について 第2回：　身体領域における作業療法（急性期） 第3回：　身体領域における作業療法（回復期） 第4回：　精神領域における作業療法（入院から地域生活支援） 第5回：　発達領域における作業療法（脳性麻痺） 第6回：　発達領域における作業療法（自閉症） 第7回：　高齢者領域における作業療法 第8回：　各領域での作業療法の特性と共通点		
教科書	二木淑子ら編集：標準作業療法学作業療法概論、医学書院、4,000円＋税		
参考書	吉川ひろみ：「作業療法の話をしよう」医学書院、3,600円 長崎重信監修：「ゴールドマスターテキスト作業療法学概論」 メジカルビュー社、4,200円		
成績評価の方法・基準	復習シート（30%）、筆記試験（70%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	作業療法で行っていることをより明瞭にしていく授業です。各領域の特性と、領域を超えた共通点を自分なりに考えてみてください。		
教員紹介	作業療法教育に10年以上携わる教員が、作業療法の基盤となる考え方について講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	後期	講義・グループワーク
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	基礎作業学Ⅰ	鎌田小百合	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	作業を効果的に且つ有意義に利用できるようになるために、作業が生活に与える影響や、作業と人との関係について学び、作業療法での作業の捉え方を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・作業の分類、役割等の影響が理解でき、具体例を挙げることが出来る。 ・作業分析の目的と方法を身に付け、実践できる。 ・具体的な作業の段階付けや適応について考察できる。		
授業計画	第1回：　作業科学①（作業の定義、作業の意味） 第2回：　作業科学②（作業バランス、役割） 第3回：　作業科学③（作業の視点、作業的存在） 第4回：　限定的作業分析　（人間作業モデル） 第5回：　〃 第6回：　限定的作業分析（カナダ作業遂行モデル） 第7回：　〃 第8回：　限定的作業分析（川モデル） 第9回：　包括的作業分析（山根による作業分析） 第10回：　〃 第11回：　グループワーク①（作業計画） 第12回：　グループワーク②（作業体験） 第13回：　グループワーク③（作業分析） 第14回：　グループワーク発表 第15回：　まとめ、集団について		
教科書	吉川ひろみ：「作業」って何だろう作業科学入門第2版 医歯薬出版株式会社　2,800円＋税 長崎重信：ゴールド・マスター・テキスト2　作業学 MEDICAL VIEW，4,800円＋税		
参考書	山根　寛：「ひとと作業・作業活動」　三輪書店　3300円＋税		
成績評価の方法・基準	復習シート55%、グループ発表25%、まとめレポート20%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	単に専門用語を暗記するのではなく、理解したことを“自分なりに表現すること”を重要視します。		
教員紹介	日本作業科学研究会に所属し、人の作業に焦点を当てた学際的な研究をしています。授業で各自が理解したことを他者に伝え共有することでより理解が深まり考えの幅も広がります。後半にはグループワークの時間を多く取り入れますので積極的に取り組んでください。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	基礎作業学演習	中村・庄司・鎌田	2単位・60時間

授業の概要 （授業の目的）	作業療法に用いられやすい手工芸等の技術を、実際に作品を作りながら習得し、治療に応用する具体的な方法を学習する。
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・授業で取り上げられる手工芸等の道具、材料、工程を把握し、一般的な方法で実施することができる。 ・道具、材料を含めた治療環境を適切に管理し、安全面に考慮して使用することができる。 ・実施した作業の特徴について説明することができる。
授業計画	<Aグループ> 第1回　陶芸　第2回　クラフトバンド手芸 第3回　陶芸　第4回　籐細工 第5回　陶芸　第6回　木工 第7回　陶芸　第8回　革細工 第9回　陶芸　第10回　七宝焼き 第11回　スポーツレクリエーション　第12回　タイルモザイク 第13回　調理　第14回　マクラメ 第15回　実　技（口　頭）試　験 <Bグループ> 第1回　クラフトバンド手芸　第2回　陶芸 第3回　籐細工　第4回　陶芸 第5回　木工　第6回　陶芸 第7回　革細工　第8回　陶芸 第9回　七宝焼き　第10回　陶芸 第11回　タイルモザイク　第12回　スポーツレクリエーション 第13回　マクラメ　第14回　調理 第15回　実　技（口　頭）試　験
教科書	長崎重信：「ゴールド・マスター・テキスト　作業学　第3版」 MEDICAL VIEW　4,800円＋税
参考書	山根　寛：「ひとと作業・作業活動」三輪書店　3300円＋税 古川　宏：「作業活動実習マニュアル」医歯薬出版株式会社　4,000円＋税 畠山真弓：「「ものづくり」でリハビリ実践ガイド」学研　3,200円＋税
成績評価の方法・基準	実技（口頭）試験10%、ポートフォリオ90%
授業の留意点・授業外の学習活動など	2グループ（A・B）、2教室に分かれて同時に授業を実施していきます。 材料の調達、作業の進行状況などにより内容が変更する可能性があります
教員紹介	臨床では精神領域や発達領域を中心に、多くの対象者と多種多様な作業とのつながりに向き合ってきました。授業では、対象者に合わせた作業の利用の仕方について考えながら実践していきましょう。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	作業療法管理学Ⅰ	清水誠＋外部講師	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	作業療法部門の拡大傾向にともない業務全体を把握し、作業療法部門の管理･運営、関連職種との連携が求められている。本科目では管理･運営等に求められる基礎知識を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・作業療法部門に関する管理、運営の基礎知識を習得する。 ・管理の知識を活かし、問題解決に向き合い努力することができる。 ・管理の視点より個人情報等の大切さを学ぶ。		
授業計画	第1回：　作業療法部門の管理・運営の概要 第2回：　多職種との連携について 第3回：　医療保険・介護保険について① 第4回：　作業療法業務（カルテについて） 第5回：　〃　（リハ計画書について） 第6回：　医療保険・介護保険について② 第7回：　守秘義務（情報管理）、個人情報保護法などについて 後輩育成の意義、目的 第8回：　振返り（レポート提出）		
教科書	特になし（随時資料を配布予定）		
参考書	金谷さとみ他：リハビリテーション管理･運営　実践ガイドブック MEDICAL VIEW　4,000円＋税 高木綾一：リハビリテーション職種のマネジメント 株式会社CBR　2,800円＋税		
成績評価の方法・基準	提出されたレポートで採点します。		
授業の留意点･授業外の学習活動など	資料を配布し、授業を進めます。		
教員紹介	総合病院等で、作業療法士としての実務経験をもつ教員が作業療法部門の管理・運営、後輩育成について講義します。カルテ、リハ計画書は現場の作業療法士に来てもらい講義を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法評価法Ⅰ	清水・横濱・岩田 外部講師	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	・対象者の身体状態を知るために必要な評価の仕方･手技を学習、理解する。 ・各評価の目的、方法を対象者に分りやすく説明し実施できるようになる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・目的に応じた各検査・測定項目を選択し、説明できる。 ・学習した各検査･測定項目を正確に実施することができる。		
授業計画	第1回：　オリエンテーション、評価法総論 第2回：　バイタル（脈拍・血圧・呼吸・聴診） 第3回：　形態測定（四肢長・四肢周径） 第4回：　関節可動域測定 第5回：　関節可動域測定 第6回：　関節可動域測定 第7回：　関節可動域測定 第8回：　実技確認試験①　※第2回～第7回が範囲 第9回：　徒手筋力検査 第10回：　徒手筋力検査 第11回：　徒手筋力検査 第12回：　徒手筋力検査 第13回：　徒手筋力検査 第14回：　徒手筋力検査 第15回：　実技確認試験②　※第9回～第14回が範囲		
教科書	塩見 泰蔵他：「リハビリテーション基礎評価学」羊土社　5,900円＋税 福田 修：「PT･OTのための測定評価 MMT 頭部･頸部･上肢」三輪書店　4,600円＋税 福田 修：「PT･OTのための測定評価 MMT 体幹･下肢」三輪書店　4,000円＋税		
参考書	長野重明他：「作業療法評価法」メディカルビュー社　5,600円+税 Dale Avers 他：「新・徒手筋力検査法 原著第10版」 共同医書出版社 7,800円+税　適宜資料を配布します。		
成績評価の方法・基準	実技確認試験①＋実時確認試験②の合計で評価します。		
授業の留意点･授業外の学習活動など	・実技中心で展開します。KC着用、検査道具も各自持参すること。 ・学習量が非常に多く、授業内だけで技術の修得は困難です。各自、空き時間を利用して実技練習を行って下さい（必要に応じ教員がサポートします)。また自身の振る舞いや、言葉遣いも意識してください。 ・実技教室内は飲食禁止です。ルール厳守でお願いします。		
教員紹介	総合病院～回復期病院の各身体領域で作業療法士として実務経験をもつ教員が、作業療法評価の手技や関わり方について教授します。 また、医療法人社団和風会で勤務している作業療法士を招き授業行っていきます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	相互交流演習Ⅰ	岩田・中村	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・対人交流の始まりである自己開示について学び、その方法・効果（影響）等を考える。 ・学外のボランティア活動に参加することにより、対人援助における基本的態度、連携の取り方、他者との人間関係の築き方について実践的に考える。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・対人交流に不可欠となる自己開示についてその必要性を説明できる。 ・外部の活動を通して、今後、自身に必要となる社会性について説明できる。		
授業計画	1．プレゼンテーション パワーポイントを用いて“自分について”のプレゼンテーションを行い、クラスメイトとの交流を図る。 2．ボランティア学習（2日間） 青梅市生涯学習　『釜の淵新緑祭』への参加を予定。 ＊事情により参加できなかった場合は、別のボランティア活動に参加してもらいます。 ＊詳細は後日お知らせします。		
教科書	特になし（必要に応じて資料を配布）		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	レポート課題		
授業の留意点・授業外の学習活動など	クラス間や学科教員との交流、地域の方との交流の場を通じて自身の社会性をあらためて考える機会にしてください。 特にボランティア学習では積極的に他者と関わり、主体的な行動を意識し参加してください。また、ボランティア活動の中では様々な場面に遭遇します。仮に理不尽な態度を示された場合でも感情的にならず「冷静に対応する」、「担当職員や教員にヘルプサインを出す」などの対処を試みる良い経験の場としてください。		
教員紹介	作業療法士の実務経験をもつ教員が様々な活動を臨床の場に置き換え、他者との連携に必要なことは何かを適宜指導します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	日常生活活動論	岩田一鷹	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	・日常生活活動（ADL）の概念を学び、動作の観察ができるように学習する。 ・観察した動作を点数化できる評価について学び、習得できる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・日常生活の概論について説明できる。 ・様々な評価の特徴を説明できる。 ・観察した日常生活動作を点数化できる。		
授業計画	第1回：　オリエンテーション（日常生活活動を考える） 第2回：　日常生活活動総論①（ICIDH・ICF） 第3回：　日常生活活動総論②（基本動作・応用動作） 第4回：　食事動作について 第5回：　整容動作について 第6回：　更衣動作について 第7回：　排泄・入浴動作について 第8回：　起居動作・移動動作・生活関連動作について 第9回：　環境・福祉用具について① 第10回：　環境・福祉用具について② 第11回：　日常生活評価　①評価総論 第12回：　日常生活評価　②評価各論（Barthel Index、FIM、その他） 第13回：　日常生活評価　③　〃 第14回：　日常生活評価　④事例を通して評価・点数化を実施 第15回：　期末試験		
教科書	柴善崇、下田信明：「PT・OTﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃｷｽﾄ ADL」 羊土社　5,200円 ＋ 税		
参考書	適宜配布します。		
成績評価の方法・基準	8回目と9回目の間に中間試験を実施します。 中間試験・期末試験の合計で評価します。		
授業の留意点･授業外の学習活動など	日常生活活動は作業療法士にとって、とても大切な評価項目です。 自分の生活などを通して、柔軟な発想で考えていきましょう。		
教員紹介	約10年救急病院や回復期病院にて作業療法を行ってきました。現在も障がい者支援施設にて発達障害の方々へADLのサポートを実施しています。どこの病院や施設で勤務しようとも、作業療法士が関わる根本は日常生活活動になります。私の今までの経験も交えながら、皆さんに日常生活活動の概念や評価について講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	1学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	見学実習	作業療法学科教員	1単位・45時間
授業の概要 (授業の目的)	通所（訪問も含む）リハビリテーション施設での臨床場面を通して、作業療法部門を中心に各部署の機能を理解する。対人援助職としての基本を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・作業療法部門の実務内容を説明することができる。 ・施設における作業療法士の役割を説明することができる。 ・施設における多職種連携について説明することができる。 ・医療従事者としての基本的マナーを意識した行動がとれる。 ・真摯な姿勢で学び、主体的に行動できる。 ・対象者を尊重した態度で接することができる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を深めます。事前に行う実習ガイダンス、講義での学びを活かし、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 ＜実習施設＞　※詳細は後日お知らせします。 通所（訪問）リハビリテーション施設 ＜実習期間＞　※詳細は後日お知らせします。 5日間の実習		
教科書	特になし		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	実習指導者による評価30%,ポートフォリオ30%,学内報告会40%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	・対象者及びご指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事にも真摯に主体的に取り組むこと。 ・施設の規則に従い、礼節をわきまえ場に適した行動をとること。 ・報告、連絡、相談を徹底し、個人情報の取り扱いに注意すること。 ・物事に対し常に積極的に学ぶ姿勢をもち、随時必要な行動をとること。		
教員紹介	作業療法士の実務経験をもつ教員が施設指導者と共に対人援助職として求められる基本的な態度や、マナーの実践について現場に応じた指導やサポートをします。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎分野	コミュニケーション概論Ⅲ	中村・鎌田・庄司	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	・作業療法士が臨床の場で求められる面接技術を理解し、多様化する対象者へ実践的なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を高める。 ・自己への理解を深め、自己管理能力を高める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・作業療法における面接に必要な基礎知識を説明できる。 ・作業療法士として意図的な面接の展開をするための視点がもてる。 ・各面接において対象者に応じた基本的な面接を実行できる。 ・作業療法士として観察に必要な基礎知識を説明できる。 ・記録した内容に対し客観的な作業療法士的思考がもてる。		
授業計画	第1、2、3回：　領域共通の面接法 第4回：　対象・評価に応じた面接 第5回：　面接の進め方 第6、7回：　面接の実際① 第8、9回：　面接時の記録 第10、11、12回：　面接の実際②　面接・観察・記録 第14、15回：　まとめ		
教科書	香山明美：「作業療法の面接技術　ストーリーの共有を目指して」 三輪書店　3,200円＋税		
参考書	山口美和：「PT･OTのためのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ実践ガイド第2版」 医学書院　2,800円＋税 山根　寛：「精神障害と作業療法　新版」三輪書店　4,000円＋税		
成績評価の方法・基準	課題（レポート・ポートフォリオ）100%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	作業療法士が対象者と自己との関係性を治療に活かすには、人との向き合い方がどう影響するかを丁寧に捉える視点や心構えが必要です。授業を通して更なる自己の成長課題を見つけ、前向きに取り組みましょう。		
教員紹介	作業療法士の実務経験をもつ教員が、作業療法士に求められる視点や思考過程について実践を通して教授します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	小児科学	鈴木　文晴	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	1.小児ハビリテーションの理解 2.上記の学習の基礎となる小児保健および成長発達の学習 3.小児リハビリテーションの中心となる小児神経疾患―脳性麻痺・重症心身障害児・知的障害・自閉症スペクトラム障害・てんかん・筋疾患などの医学的理解。レポート作成の方法に習熟する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	1.上記1-3について十分な基礎的知識を身につける 2.将来のon the job trainingを可能にするため、受け身の学習ではなく、主体的に学習する能力を身につける		
授業計画	第　1回～　2回･･･小児リハビリテーションの基礎　課題レポートの説明 小児保健統計　国民衛生の動向　社会保障 第　3回～　4回･･･小児の成長と発達　予防接種 第　5回～　6回･･･新生児　低出生体重児　脳性麻痺その1 第　7回～　8回･･･脳性麻痺その2 先天異常　２１トリソミー（ダウン症候群）二分脊椎 第　9回　･･･中間試験 第　10回　･･･てんかんとてんかん発作 重症心身障害児（者） 第11回～12回･･･知的障害　注意欠陥多動性障害　学習障害 自閉症スペクトラム障害 第13回～14回･･･筋疾患　循環器　呼吸器　児童虐待　視聴覚障害 第15回･･･定期試験　まとめ		
教科書	冨田豊編集　標準理学療法・作業療法学　小児科学　第6版 医学書院　4,200円＋税		
参考書			
成績評価の方法・基準	中間試験50点（課題レポートを加味する）、期末試験50点、合計100点 合格点に満たない場合は何回でも再試験になります。		
授業の留意点･授業外の学習活動など	予習と授業中の活発な意見発表を求めます。		
教員紹介	第2北総病院　小児リハビリセンター長（小児科医）		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	基礎作業学Ⅱ	鎌田・庄司	2単位・30時間

授業の概要 （授業の目的）	作業を効果的に且つ有意義に利用できるようになるために、作業の具体的な活用方法を学習する。
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・経験した作業の一般的特徴を理解し、説明することが出来る ・対象者に応じた作業の治療的活用方法を考察し、説明することができる。
授業計画	第1回：　作業分析の視点 第2回：　作業分析・基本項目 第3回：　作業分析・細分化 第4回：　〃 第5回：　作業分析・必要な能力 第6回：　〃 第7回：　〃 第8回：　作業分析・段階付け 第9回：　〃 第10回：　〃 第11回：　〃 第12回：　作業分析・適応 第13回：　〃 第14回：　〃 第15回：　〃
教科書	長崎重信：「ゴールド・マスター・テキスト2　作業学　第3版」 MEDICAL VIEW　4,800円＋税
参考書	山根　寛：「ひとと作業・作業活動」三輪書店　3300円＋税
成績評価の方法・基準	小テスト80%、まとめレポート20%
授業の留意点･授業外の学習活動など	基礎作業学演習で実施した作業を例に、具体的な作業分析を行います。 1年次で学習した作業分析の視点が必要です。 授業内容の区切りで、小テストを実施します。
教員紹介	臨床では精神領域や発達領域を中心に、多くの対象者と多種多様な作業とのつながりに向き合ってきました。作業の使い方は様々ありますが、使用法に根拠を持つことは重要です。自分なりに説明できることを目指しましょう。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	前期・後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法評価法Ⅱ	清水・横濱・岩田	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	・身体領域で使用される検査・測定法を理解し実施できる。 ・各評価の目的・項目・意義・方法について理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・各検査、測定項目を選択・説明できる。 ・各検査、測定項目を正確に実施できる。		
授業計画	第1・2回：　脳神経検査① 第3・4回：　脳神経検査② 第5・6回：　協調性検査 第7・8回：　姿勢反射検査、バランス検査 第9・10回：　上肢機能検査（STEF） 第11・12回：　片麻痺機能検査（BRS、上田式） 第13・14回：　感覚検査、痛みの検査 第15・16回：　神経心理学検査①（JCS・GCS・MMSE・HDS-R） 第17・18回：　神経心理学検査②（TMT-A／b・FAB・仮名ひろい検査） 第19・20回：　神経心理学検査③（Benton・三宅式記銘力検査） 第21・22回：　神経心理学検査④（Kosh立方体組み合わせテスト・Reven色彩マトリックス検査） 第23・24回：　神経心理学検査⑤（CAT：標準注意評価法） 第15・16回：　神経心理学検査⑥（BIT：行動性無視検査、RBMT：Rivermead行動記憶検査） 第27・28回：　神経心理学検査⑦（BADS：遂行機能障害の行動評価検査） 第29・30回：　神経心理学検査⑧（SPTA：標準高次動作性検査）		
教科書	塩見泰蔵：「リハビリテーション基礎評価学」羊土社　5,900円+税 その他、随時資料を配布します。		
参考書	長野重明ほか：「作業療法評価法」メディカルビュー社　5,600円+税 田崎義昭ほか：「ベッドサイドの神経の診かた」南山堂　7,200円+税		
成績評価の方法・基準	（前期（実技）：50 %　後期（記述）：50 %）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	技術習得は、各自で練習する時間を設けてください。		
教員紹介	身体領域での実務経験をもつ教員2名が、身体機能・高次脳機能評価で用いられる検査について教授します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2年生	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法評価法Ⅲ	中村・庄司・鎌田 非常勤講師	2単位・60時間
授業の概要 （授業の目的）	主に、精神領域における評価を学ぶ。対象者一人ひとりに寄りそった治療・支援ができるよう、『評価』を用いて対象者を“知る”ための技術を学ぶ。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・評価をする意味や目的を説明できる。 ・学んだ評価を適切に選択、活用できる。 ・評価した内容を適切に記録して作成できる。		
授業計画	第1回：精神領域における評価とは。 第2～6回：認知症予防講座の動画を用いて「評価」を考える。 第7～9回：事例を用いて「評価」を考える。 第10～11回：小集団のプログラムを通じて「評価」を考える。 第12回：「評価」の記録方法を考える。 第13～14回：　臨床における評価のポイントを考える。 第15回：　振り返り		
教科書	なし。（必要に応じてプリントなど配布）		
参考書	潮見泰蔵：「リハビリテーション基礎評価学　第1版」羊土社　5,900円＋税 香山明美：「精神障害作業療法　第2版」医歯薬出版　3,900円＋税 山根　寛：「精神障害と作業療法　第3版」三輪書店　3,800円＋税		
成績評価の方法・基準	課題（レポート・ポートフォリオ）100%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	・より実践的な理解が進むよう、見学 ⇒ 模倣 ⇒ 実施の過程をたどりながら授業を展開していきます。 ・質問、疑問点などあれば、適宜、担当教員に質問し理解を深めて下さい。 ＊進行状況に応じて講義スケジュールが、変更になる場合があります。		
教員紹介	担当教員は、精神科病院等にて臨床経験がある教員であり、それぞれの経験を活かし授業を展開していく。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2年生	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法評価法Ⅳ	作業療法教員 非常勤講師	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	一人一人に寄り添った支援ができるよう、小児･発達領域、精神領域、日常生活動作の評価技術を学ぶ。また学んだことをどのように発展させるか実践方法を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・小児･発達領域、精神領域の一般的な評価が行える。 ・成人のADL評価、事例を通じ問題点の抽出が行える。 ・学んだ事をOSCEに向けた学習により実践に発展させることができる。 ・事例より自分が考える評価・支援方法を報告することができる。		
授業計画	第1回：知能検査（WISC／WPPSI／K-ABC） 第2回：DAM(グッドイナフ人物画知能検査)／新版S-M社会生活能力検査 第3回：DTVP(フロスティッグ視知覚発達検査) 第4回：Wee FIM／PEDI 第5回：ADHD-RS／SNAP／CARS2(小児自閉症評定尺度) 第6回：PEP-3(自閉症･発達障害児教育診断検査) 第7回：精神領域における評価尺度① 第8回：認知症における評価尺度② 第9回：OSCE（客観的臨床能力試験）についてオリエンテーション 第10～16回：OSCE に向けた個別・グループ学習 第17・18回：身体領域のICF・FIM（事例を通じて検討・総復習） 第19・20回：身体領域の介助・支援方法 第21回：専門職連携教育「青梅看護専門学校・合同カンファレンス」 についてオリエンテーション 第22～29回：合同カンファレンスに向けた個別・グループ学習 第30回：定期試験（筆記）		
教科書	なし（必要に応じてプリントなど配布）		
参考書	必要に応じて紹介していく。		
成績評価の方法・基準	筆記試験・OSCE・合同カンファの採点により総合的に判断する。 (詳細は別にオリエンテーションします)		
授業の留意点･授業外の学習活動など	学生自らが考え、行動する機会が多くなります。時間を無駄にすることがないよう積極的に学習に臨んでください。		
教員紹介	作業療法学科の教員が、それぞれの専門性を活かし臨床での多様な経験に基づいて授業を展開していく。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	相互交流演習Ⅱ	鎌田小百合	1単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	ヘルスプロモーションにおける作業療法の役割を理解する。 作業療法においてグループ活動を円滑に進めるために、作業や集団等の利用方法について理解し、実践方法を身につける。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・対象者、目的に応じた作業内容について説明できる。 ・時間、場所に考慮して作業内容を検討することができる。 ・活動を実際に展開することでの気づきを言語化することが出来る。
授業計画	第1回：　授業概要説明 第2回：　認知症サポートについて 第3回：　ヘルスプロモーションと作業療法 第4回：　グループ学習（講座に関する情報収集、講座大枠の検討） 第5回：　グループ学習（講座大枠の決定） 第6回：　グループ学習（講座詳細検討：時間配分、道具・材料等） 第7回：　グループ学習（グループ内実践、内容修正・検討） 第8回：　グループ学習　　〃 第9回：　グループ学習（資料作成、説明原稿の確認など） 第10回：　グループ学習（グループ内通し練習） 第11～14回：　グループ発表 第15回：　振り返り
教科書	吉川ひろみ：「作業」って何だろう　作業科学入門　第2版 医歯薬出版株式会社　2,800円＋税
参考書	随時紹介
成績評価の方法・基準	4つのレポート課題（各25%）を総合して評価する。
授業の留意点・授業外の学習活動など	グループに分かれ、「認知症予防講座」を企画していきます。 出来上がった企画は、青梅市役所で市民を対象に実践します(9～10月予定)。
教員紹介	青梅市社会教育課と連携した取り組みを行って10年以上になります。 病気や障害への対応だけでなく、健康促進に関わる作業療法について積極的に考えていきましょう。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法治療学Ⅰ	横濱秀征	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	各疾患の症状を理解し、作業療法を実施するための考え方を身に着ける。 臨床でコミュニケーションがとれるよう、専門用語を身に着ける。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	各疾患の症状を列記できる。 各疾患の重症度、進行度などを評価するスケールを列記できる。 各疾患に対して、作業療法を実施するための考え方を説明できる。
授業計画	第1回：　導入、廃用症候群 第2回：　脳血管障害（総論） 第3回：　脳血管障害（錐体路障害について） 第4回：　脳血管障害（時期別の作業療法について） 第5回：　脳血管障害（治療介入・援助方法） 第6回：　パーキンソン病（総論） 第7回：　パーキンソン病（治療介入・援助方法について） 第8回：　小脳失調（終了後、中間試験実施） 第9回：　脊髄損傷（総論） 第10回：　脊髄損傷（治療介入・援助方法について①） 第11回：　脊髄損傷（治療介入・援助方法について②） 第12回：　末梢神経障害（総論） 第13回：　末梢神経障害（各論）各絞扼性障害　腕神経叢等 第14回：　末梢神経障害（各論）末梢神経障害による変形手 第15回：　定期試験 ＊小脳失調が終わった時点で、中間試験を実施します。
教科書	長崎重信：「作業療法ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学」 ［Web動画付き］第3版　メジカルビュー社、5,600円＋税 その他：随時、資料を配布します。
参考書	菅原洋子：「作業療法学全書 第4巻 作業療法1　身体障害」 （協同医書出版）3800円＋税 田崎ら：『ベッドサイドの神経の診かた』改訂18版　（南山堂）7,200円+税
成績評価の方法・基準	中間試験50%、定期試験50%で評価を行います。
授業の留意点･授業外の学習活動など	解剖・運動・生理学の基礎知識が必要となってきます。 しっかり復習して授業に臨んでください。
教員紹介	回復期病棟にて身体領域の作業療法を行ってきた経験を踏まえ、各疾患に対する作業療法介入についてを教授します。 質問等あれば、h.yokohama@tama-riha.ac.jpまで。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法治療学演習Ⅰ	横濱秀征	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	身体障害領域で行う作業療法を実施するための理論を学び、基礎的治療介入技術を実施できるようになる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・作業療法介入の原理が説明できる。 ・疾患特徴を捉えた治療選択ができる。 ・評価、分析のクリニカルリーズニングを説明できる。		
授業計画	第1回：　オリエンテーション・クリニカルリーズニング 第2回：　作業療法導入について 第3回：　関節可動域訓練① 第4回：　関節可動域訓練② 第5回：　関節可動域訓練③（実技） 第6回：　筋力強化訓練① 第7回：　筋力強化訓練② 第8回：　筋力強化訓練③（実技） 第9回：　脳血管障害の作業療法① 第10回：　脳血管障害の作業療法② 第11回：　神経筋促通法 第12回：　運動失調に対するアプローチ 第13回：　スプリント療法 第14回：　腱損傷の作業療法 第15回：　授業まとめ・期末試験		
教科書	長崎　重信：「作業療法ゴールドマスターテキスト　身体障害作業療法学」 ［Web動画付き］第3版　メジカルビュー社、5,600円＋税 その他：随時、資料を配布します。		
参考書	市川和子：「標準作業療法　臨床実習ケーススタディ」医学書院、4,200円+税 潮見ほか：「リハビリテーション基礎評価学　第1版」羊土社、5,900円+税		
成績評価の方法・基準	期末試験100%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	治療対象となる各疾患を、しっかり復習して臨んでください。		
教員紹介	回復期病棟にて身体領域の作業療法を行ってきた経験を踏まえ、各疾患に対する作業療法介入についてを教授します。 質問等あれば、h.yokohama@tama-riha.ac.jpまで。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	作業療法治療学Ⅱ	鎌田小百合	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	精神科領域での作業療法が展開できるようになるために、精神科の現状を踏まえたうえで、代表的な疾患の特徴を押さえ、作業療法としての援助の仕方を学習する。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・日本の精神科医療の現状と課題について説明できる。 ・代表的な精神疾患の状態像が説明できる。 ・各疾患に対する作業療法の目的と関わり方について説明できる。
授業計画	第1回：　障害、回復の捉え方 第2回：　精神OT関連の歴史 第3回：　精神科作業療法の現状と課題 第4回：　統合失調症に対する作業療法（急性期） 第5回：　〃 第6回：　統合失調症に対する作業療法（地域移行支援） 第7回：　〃 第8回：　統合失調症に対する作業療法（地域生活支援） 第9回：　気分障害に対する作業療法（うつ病相） 第10回：　気分障害に対する作業療法（躁病相） 第11回：　神経症性障害に対する作業療法 第12回：　パーソナリティ障害に対する作業療法 第13回：　摂食障害に対する作業療法 第14回：　依存症に対する作業療法 第15回：　定期試験
教科書	山根　寛：「精神障害と作業療法　新版」三輪書店　4,000円＋税 香山明美他：「精神障害作業療法-急性期から地域実践まで-」 医歯薬出版株式会社　3,900円＋税
参考書	朝田　隆「精神疾患の理解と精神科作業療法　第2版」中央法規　3,800円 早坂友成他：「精神科作業療法の理論と技術」メジカルビュー社　4,200円
成績評価の方法・基準	復習シート70%、筆記試験30%
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業は配布したプリントに沿って講義を進めますが、教科書の該当範囲は必ず読んで復習をしてください。
教員紹介	精神科病院で臨床業務をしていた頃のエピソードを織り交ぜながら講義をしていきます。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法治療学演習Ⅱ	庄司麻美	1単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	精神領域の作業療法士として、対象者中心の視点で寄り添うために、対象者の生活上のしづらさを捉え、具体的な支援方法を展開できるようになる。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・介入に必要な評価の視点や技術が説明できる。 ・様々な評価情報を整理し、具体的な支援展開の枠組みが理解できる。 ・作業療法の役割や治療構造を理解し、多角的な支援方法が検討できる。 ・対象者が抱える作業遂行上の問題や背景を知り、得られた情報をもとに評価を掘り下げる視点がもてる。 ・対象者に適した治療計画立案について相談、説明ができる。 ・実際に観察評価を経験し、対象者理解ができる。
授業計画	精神医学、作業療法治療学Ⅱの知識を基盤に進めるので、各授業の復習も行いながらの参加が必要です。事例から臨床を想定し、他者と積極的な意見交換をもつこと、他者に自分の考えを提示できるよう努めてください。 第1回：　精神機能に対する作業療法 第2回：　作業療法の治療構造（治療機序･過程･手段･技法） 第3回：　作業療法の評価から再評価まで 第4～6回：　作業療法の実際①②③ 第7～10回：　事例検討①～④ 第11回：　作業療法の効果と根拠 第12・13回：　プログラム立案・発表 第14回・15回：　まとめ・定期試験
教科書	山根 寛：「精神障害と作業療法　新版」三輪書店　4,000円＋税 香山明美他：「精神障害作業療法 第2版」　医歯薬出版　3,900円＋税
参考書	市川和子：「標準作業療法学 作業療法臨床実習とケーススタディ　第2版」 医学書院　3,800円＋税　他
成績評価の方法・基準	課題提出50%、課題発表30%、筆記試験20%
授業の留意点･授業外の学習活動など	他の精神領域の学びと関連づけながら対象者理解を深めましょう。
教員紹介	精神科病院で作業療法士の実務経験をもつ教員が、精神科作業療法における対象者と寄り添う視点、様々な作業療法の展開方法について紹介します。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法治療学Ⅲ	林　義巳	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	・正常発達に沿った作業療法の援助ができるようになる。 ・発達障害領域における作業療法を学ぶ上で、乳児期の正常発達、原始反射平衡反応などを理解する。 ・障害の特徴を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・乳幼児の粗大運動発達や巧緻動作等の発達を説明できる。 ・乳幼児の原始反射・立ち直り反応・平衡反応について説明できる。 ・手の機能について、握り・つまみ・手内操作の説明ができる。 ・運動発達が遅れている子どもたちのOTアプローチを考案できる。		
授業計画	第1回：　小児OTの意義と目標 第2回：　発達理論・発達指標「遠城寺式乳幼児分析的発達検査」 第3回：　原始反射 第4回：　立ち直り反応・平衡反応 第5回：　手の機能①「握り・つまみの発達、手内操作」 第6回：　手の機能②「両手動作：スプーン、折り紙、雑巾しぼり等」 第7回：　子どもの遊び 第8回：　振り返り、中間試験 第9回：　乳児の発達0～6か月 第10回：　乳児の発達6～12か月 第11回：　運動発達課題1 第12回：　運動発達課題2 第13回：　ダウン症候群、Duchenne型筋ジストロフィー 第14回：　Duchenne型筋ジストロフィー(続き)、二分脊椎 第15回：　振り返り、定期試験		
教科書	新田收、笹田哲、内昌之編集「知りたかった！PT・OTのための発達障害ガイド」金原出版　5,060円		
参考書	・M.R.Fiorentino著、小池文英訳「脳性麻痺の反射検査　第2版　早期診断と治療の手がかり」医歯薬出版　2,258円		
成績評価の方法・基準	中間試験50%、定期試験50%で成績評価を行います。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	正常発達を学び、脳性麻痺児のADL指導に繋げていきます。運動発達課題では、訓練プログラムを考案します。基礎になるのは、前半の授業です。しっかり学んで下さい。		
教員紹介	肢体不自由児通園施設にて約10年作業療法を担当しました。小児科医のもと運動発達が遅れている子どもの発達指導や保育器に入っている新生児のリハビリも行いました。現在は、特別支援学校の外部専門員として10年以上活動を続けています。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法治療学演習Ⅲ	林　義巳	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	・脳性麻痺児の作業療法を行う上で動作分析を元にしたハンドリングを身に付ける。 ・感覚統合の考え方を理解する。 ・発達障害児のアプローチについて理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・脳性麻痺のタイプやADL指導を説明できる。 ・姿勢変換のハンドリングが実施できる。 ・感覚統合の理論・評価・訓練が説明できる。 ・小児の各疾患の特徴を理解し、作業療法アプローチについて説明できる。 ・療育施設・特別支援学校における指導について理解する。		
授業計画	第1回：　脳性麻痺の作業療法（痙直型両麻痺①） 第2回：　脳性麻痺の作業療法（痙直型両麻痺②） 第3回：　脳性麻痺の作業療法（アテトーゼ型①） 第4回：　脳性麻痺の作業療法（アテトーゼ型②） 第5回：　脳性麻痺の作業療法（失調型、痙直型片麻痺①） 第6回：　脳性麻痺の作業療法（失調型、痙直型片麻痺②） 第7回：　重症心身障害児の作業療法 第8回：　振り返り、中間試験 第9回：　発達障害の特徴、診断基準 第10回：　感覚統合理論、感覚統合発達記録等 第11回：　感覚統合臨床観察、行為検査等 第12回：　感覚統合の治療、発達障害臨床場面 第13回：　発達障害場面検討、不適切な行動についての考え方と支援方法 第14回：　発達障害の指導（書字・お箸、こんな時どうする？） 第15回：　振り返り、定期試験		
教科書	新田收、笹田哲、内昌之編集「知りたかった！PT・OTのための発達障害ガイド」　金原出版　5,060円		
参考書	・ナンシー.R.フィニー著「脳性まひ児の家庭療育」医歯薬出版、3,675円 ・佐藤剛監修「感覚統合Q＆A改訂第2版−子どもの理解と援助のために」協同医書出版　3,150円		
成績評価の方法・基準	中間試験50%、定期試験50%で成績評価を行います。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	教室や講堂で行うハンドリングの実技では、触り方や正常動作の視点を学びます。自分の体がどのように動くのかを感じて、話の内容を書き留めて下さい。体操着（ズボン）への着替えをお願いします。		
教員紹介	肢体不自由児通園施設にて約10年作業療法を担当しました。小児科医のもと運動発達が遅れている子どもの発達指導や保育器に入っている新生児のリハビリも行いました。現在は、特別支援学校の外部専門員として10年以上活動を続けています。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2年生	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	作業療法治療学Ⅳ	林･清水･中村･横濵	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・生理的老化について理解する。 ・高齢者の特有の疾患を理解する。 ・高齢者特有の疾患に対する作業療法を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・生理的老化について説明できる。 ・高齢者特有の疾患の特徴を説明できる。 ・高齢者特有の疾患に対する作業療法を説明できる。		
授業計画	第1回：　総論（老化について）／癌のリハビリテーション 第2回：　認知症の作業療法① 第3回：　認知症の作業療法② 第4回：　認知症の作業療法③ 第5回：　認知症の作業療法④ 第6回：　認知症の作業療法⑤ 第7回：　高齢者の4大骨折① 第8回：　高齢者の4大骨折② 第9回：　高齢者の4大骨折③ 第10回：高齢者の4大骨折④ 第11回：高齢者の循環器疾患① 第12回：高齢者の循環器疾患② 第13回：高齢者の呼吸器疾患 第14回：高齢者の泌尿器疾患 第15回：振り返り（定期試験）		
教科書	大内尉義：「標準理学･作業療法 老年学 第4版」医学書院、4,500円＋税		
参考書	随時紹介します。		
成績評価の方法・基準	定期試験（100点満点）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	2025年には超高齢者社会がやってきます。人は病気にならなくても生理的に機能・能力が低下し、病気になることでさらに機能・能力が低下し、社会参加ができなくなります。予防医学を考えるためには必要不可欠な科目です。しっかりと学んでください。		
教員紹介	作業療法学科教員が高齢者を対象とした臨床経験を活かし、各教員の専門領域を担当する。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	前期・後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	日常生活活動演習	岩田一鷹	1単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	・日常生活活動論で学んだ知識を基に、疾患別のADLの特徴を学ぶ。 ・日常生活に対する作業療法士の関わり、手技を習得する。 ・事例検討を通じ、自身意見を他者へ伝える技能を養う。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・各疾患別の動作手順について説明できる。 ・問題点から作業療法プログラムを計画できる。 ・日常生活動作に対する作業療法士の関わりを説明できる。
授業計画	＜前期＞ 第1回：　オリエンテーション 第2回：　パーキンソン病のADL① 第3回：　パーキンソン病のADL② 第4回：　呼吸器疾患のADL① 第5回：　呼吸器疾患のADL② 第6回：　RAのADL① 第7回：　RAのADL② } レポート課題
	＜後期＞ 第8回：　下肢骨折のADL① 第9回：　下肢骨折のADL② 第10回：　脳血管疾患のADL① 第11回：　脳血管疾患のADL② 第12回：　脳血管疾患のADL③ 第13回：　脊髄損傷のADL① 第14回：　脊髄損傷のADL② 第15回：　症例事例発表 } 事例を通じ発表
教科書	適宜資料を配布します。
参考書	柴善崇、下田信明：「PT・OTﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃｷｽﾄ ADL」羊土社　5,200円+税
成績評価の方法・基準	レポート・事例発表にて評価します。 各評価基準についてはルーブリックを用いますので、事前に説明します。
授業の留意点・授業外の学習活動など	・臨床現場でも必須となる分野となります。自主的に様々な文献から学び幅広い知見を得るようにしましょう。 ・必要に応じて課題や、クラス内発表も実施します。
教員紹介	身体領域（脳血管、整形外科、呼吸器、がんを主に担当しておりました）での作業療法経験を踏まえ、皆さんに各疾患に対するADLの特徴や考え方を、私の経験も交えながら教授します。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	高次神経学	横濱秀征	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	高次脳機能障害に対して作業療法を実施する為の評価、症状を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・各症状の特徴を説明できる。 ・各症状がどの様なメカニズムで出現するのかを説明できる。 ・各症状に対しての評価を選択することができる。		
授業計画	第1回：　総論：高次脳機能障害とは 第2回：　高次脳機能の分類について （注意・記憶・遂行・失語・失行・失認） 第3回：　脳の側性化と局在について 第4回：　各頭葉の働きについて 第5回：　高次脳機能評価①（情報収集と脳機能について） 第6回：　高次脳機能評価②（CT・MRI画像について） 第7回：　各論：覚醒・注意障害について 第8回：　各論：記憶障害について 第9回：　各論：遂行機能障害について 第10回：　各論：失行症について 第11回：　各論：失認症について 第12回：　各論：失語症について①（ST学科教員による） 第13回：　各論：失語症について②（ST学科教員による） 第14回：　各論：半側空間無視について 第15回：　定期試験とまとめ		
教科書	本田哲三：高次脳機能障害のリハビリテーション　実践的アプローチ第3版 医学書院、4,200円＋税 その他：プリントを随時配布します。		
参考書	作業療法全書　第8巻　高次脳機能障害　協同医書出版、3,200円＋税 酒向正春ら：リハに役立つ脳画像　メジカルビュー社、3,500円＋税 長崎重信：ゴールドマスターテキスト5　高次脳機能障害作業療法学 メジカルビュー社、4,200円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（70%）・レポート（30%）で成績評価を行います。		
授業の留意点･授業外の学習活動など	作業療法評価法Ⅱでの高次脳機能評価に必要な知識となりますので、しっかりとメモを取り、理解に努めてください。 脳の機能についての理解は、解剖・生理学の知識が必要となってきます。 しっかり復習して授業に臨んでください。		
教員紹介	作業療法士として10年以上の経験を踏まえ、高次脳機能障害を教授します。 質問等あれば、h.yokohama@tama-riha.ac.jpまで。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	義肢装具学	緑川　潤一	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	・リハビリテーションや日常生活において、障害を軽減または代償するために用いられる義肢や装具の役割、必要性を理解する。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・義肢や装具の構成要素の名称や種類および機能が理解できる。 ・症例ごとに必要な義肢や装具を選択できる。
授業計画	授業では、治療や日常生活において用いられる、義肢や装具について教科書だけでなく、実際に義肢や装具を用いて、見て、触れて授業を進めていきます。 第1回　義肢学概論 第2回　義肢装具材料学 第3回　切断について 第4回　義手の構成要素（種類・機能） 第5回　義手（前腕義手・適合判定） 第6回　義手（上腕義手・適合判定） 第7回　義足（下腿・大腿義足など） 第8回　膝継手・義足足部 第9回　義足のアライメント調整 第10回　その他の義足 第11回　装具学概論 第12回　体幹装具（種類・適応疾患など） 第13回　上肢装具（種類・適応疾患など） 第14回　下肢装具（種類・適応疾患など） 第15回　定期試験　まとめ
教科書	・古川宏編集：作業療法学全書　改訂第3版 『第9巻　義肢装具学』　協同医書出版社　3,200円＋税 ・プリント随時配布
参考書	特にありません
成績評価の方法・基準	定期試験100%
授業の留意点･授業外の学習活動など	義肢や装具の種類、構成部品等、覚えることが非常に多いので、必ず復習をしてください。
教員紹介	千ヶ瀬ケアホーム　施設長 義肢装具士

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	前期・後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	生活環境論	林　義巳 清水誠・横濱秀征	2単位・60時間
授業の概要 (授業の目的)	・生活環境論では、作業療法士になった際に、患者様やご家族から福祉機器や住宅改修の相談を受けて、その障害に合った提案ができるように学習を進めていきます。 ・将来の患者様が、自立した生活を送れるように、自助具の提案ができる能力を身につけます。購入できる市販品だけでなく、障害に合った自助具・スプリントを自分で考案できることを目的としています。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・福祉機器の名称や使用方法を説明できる。 ・住宅改修する際のポイントや注意点を説明できる。 ・障害に適した自助具を選ぶことができる。 ・福祉住環境コーディネーター3級試験の検定試験を受験し合格する。		
授業計画	第1回　少子高齢化の現状、介護保険 第2回　バリアフリーとユニバーサルデザイン 第3回　移動・移乗のための福祉用具 第4回　車椅子 第5回　起居・就寝・排泄・入浴・コミュニケーションのための福祉用具 第6回　疾患別の生活環境の指導 第7回　ポジショニング 第8回　住まいの整備、屋外移動・外出・屋内移動のための住環境整備 第9、10回　水回りの住環境整備 第11回　清掃・洗濯、調理、起居・就寝のための住環境整備 第12回　家屋調査の説明（自宅の計測） 第13回　間取り図の作成 第14回　家屋調査発表、改修の検討 第15回　振り返り、定期試験	第1回　自助具、ガイダンス 第2回　住環境整備の検討① 第3回　住環境整備の検討② 第4回　自助具例・疾患別課題 第5回　住環境と自助具問題 第6回　国際福祉機器展参加 第7回　一般職業適性検査等 第8回　一般職業適性検査等 第9回　疾患別自助具･機器発表 第10回　疾患別自助具･機器発表 第11回　まとめ試験 第12回　自助具発表会① 第13回　自助具発表会② 第14、15回　スプリント作成	
教科書	「福祉住環境コーディネーター検定試験　3級公式テキスト　改訂6版」 東京商工会議所　2,750円		
参考書	野村歡、橋本美芽著「OT・PTのための住環境整備論　第2版」 三輪書店　4,200円+税		
成績評価の方法・基準	前期定期試験60%、後期小テスト20%、自助具疾患別発表／作成発表20%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	・前期は教科書に線を引きます。教科書とマーカー等の準備して下さい。 ・具体的な患者像を設定し、自助具を考案してください。		
教員紹介	住宅改修を行うため、保健師と患者様の自宅を訪問し、ご本人の意向を聞きながら、大工さんと打ち合わせをした経験があります。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	地域作業療法学	鎌田・中村 非常勤講師	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	・地域リハビリテーションの概念について理解する。 ・地域における基本的な作業療法について理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・地域の人々の生活、文化、環境、社会経済構造等、地域の特性を捉える方法について説明できる。 ・地域作業療法を支える制度について説明できる。 ・実践の場に応じた作業療法について説明できる。		
授業計画	第1回：　地域リハビリテーションの経緯と理念 第2回：　作業療法士が求められている地域の場 第3回：　地域包括ケアシステム 第4回：　地域生活と評価の視点 第5回：　身体領域における地域支援の実際① 第6回：　身体領域における地域支援の実際② 第7回：　身体領域における地域支援の実際③ 第8回：　身体領域における地域支援の実際④ 第9回：　高齢者領域における地域支援の実際① 第10回：　高齢者領域における地域支援の実際② 第11回：　精神領域における地域支援の実際① 第12回：　精神領域における地域支援の実際② 第13回：　就労にかかわる支援 第14回：　医療観察法にかかわる支援 第15回：　レポート課題		
教科書	特になし		
参考書	小林法一、小林隆司：「作業療法学講座 地域作業療法学」 医歯薬出版、4,400円＋税 長崎重信：「ゴールド・マスター・テキスト　地域作業療法学」 MEDICAL VIEW、4,000円＋税		
成績評価の方法・基準	担当教員毎にレポート提出		
授業の留意点・授業外の学習活動など	地域支援はそれぞれの地域特性に合わせて考えていく必要があります。自分の住んでいる地域や興味のある地域には、医療福祉に関してどのような制度・施設があるのか関心を持ってみるとよいです。		
教員紹介	各領域で地域支援を担った教員が実際の経験を踏まえて講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	生活行為向上 マネジメント演習	鎌田小百合	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	生活行為向上マネジメント（MTDLP）について理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・MTDLPの背景について説明できる。 ・MTDLPの用語について説明できる。 ・MTDLPの考え方を理解し、検討した事例について説明できる。		
授業計画	第1回：　MTDLP概論①（背景）理論的位置づけ 第2回：　MTDLP概論②（考え方） 第3回：　MTDLP概論③（シート解説 - 聞き取りシート等） 第4回：　MTDLP概論④（シート解説 - アセスメント演習シート等） 第5回：　MTDLP概論⑤（シート解説 - プラン演習シート等） 第6回：　事例報告よりMTDLPの考え方を理解する 第7回：　中間試験 第8～15回：　事例検討		
教科書	日本作業療法士協会編著：「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント」 医歯薬出版株式会社　4,000円＋税		
参考書	世界保健機関：「ICF国際生活機能分類 - 国際障害分類改訂版 - 」 中央法規　3,500円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記テスト50%、レポート50%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	MTDLPは実習でも使用します。実践で活用できるように、まずはこの授業で概要理解ができるように努めてください。		
教員紹介	MTDLP実践者研修修了した教員が概要説明をします。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	2学年	後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択必修分野	評価実習	作業療法学科教員	5単位・225時間
授業の概要 （授業の目的）	・臨床現場の在り方について学び、検査評価に必要な基礎知識を充実させる。 ・指導を受けながら対象者の状態像を捉える思考過程を学ぶ。また、情報収集の在り方から評価計画の立案、実施、情報の整理、記録などの作業療法の一連の臨床技能において段階を踏みながら理解を深める。 ・作業療法士の業務の一助を経験することで、作業療法士としての他職種連携や臨床技能を学ぶ。 ・臨床で学んだ作業療法思考過程について、口頭及び紙面上で経験を説明し、自己課題を客観的に整理する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・実習に必要な基礎知識や検査、評価の技能を確認し適切に実践できる。 ・医療職としての基本的態度を意識し実践できる。 ・学生として常に関心を持ち、進んで学ぶ姿勢が維持できる。 ・実習中に携わる関係者と真摯に向き合い望ましい関係を構築できる。 ・作業療法に必要な情報収集及び評価の選択ができる。 ・対象者に即した作業療法評価について経験を通して理解ができる。 ・日々の実習内容について適切な表現で記録にまとめ、説明できる。 ・自身に必要な課題に気付き、進んで自己学習ができる。		
授業計画	※日程等の詳細は後日お知らせします。 オリエンテーション 検査測定実習（1週間） 臨床実習（3週間） 実習前・後実技演習　　等		
教科書	特になし		
参考書	各自必要と思われるものを持参すること。		
成績評価の方法・基準	実習指導者による実習状況評価表 実習前・後実技演習 ※上記を総括的に学科教員が評価する。		
授業の留意点･授業外の学習活動など	・実習に向けた事前準備、実習後の振り返りをしっかり行う。 ・臨床現場では各実習施設の規則に従い、礼節をわきまえて行動する。 ・一人で抱え込まず、指導者及び学科教員に相談する視点をもつこと。		
教員紹介	厚労省が指定した臨床実習指導者講習会等を終了した、臨床経験5年目以降の作業療法士による指導のもと、現場の知識や技術を指導します。 また、学科教員が実習先の指導者と密に連絡を取り合いながら、有意義な実習になるよう支援します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	3学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	基礎分野演習	作業療法学科教員	4単位・120時間
授業の概要 (授業の目的)	医療・福祉の専門職として必要となる基礎医学・臨床医学についての理解を深める。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	各分野での医学知識を理解し、専門用語を用いて説明することができる。		
授業計画	【基礎医学分野】 ・解剖学 ・生理学 ・運動学 【臨床医学分野】 ・病理学 ・神経内科学 ・整形外科学 ・内科学 ・精神医学 ・臨床心理学 ・人間発達学 ・リハビリテーション概論		
教科書	①　理学療法士作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野　基礎医学　2025　　医歯薬出版、4,400円＋税 ②　理学療法士作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野　臨床医学　2025　　医歯薬出版、4,400円＋税		
参考書	これまでに使用した教科書、資料など		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	授業スケジュールは、授業開始前までに予定表を配布します。予習・復習などの自己学習を徹底的に行ってください。		
教員紹介	身体領域、精神領域、高齢者領域、発達領域、すべての領域にわたりアドバイスができるように、それぞれの領域で臨床経験のある作業療法学科の全教員が授業に関わります。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	3学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	作業療法管理学Ⅱ	清水　誠	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	職場環境の変化に伴い技術･学習の自己研鑽だけでなく、後輩育成を含む作業療法業務全体の管理･運営に関するスキルも必要となってきている。さらに卒後、臨床家としてのキャリア･デザインの重要性や価値観について学び、今後に生かしてもらいたい。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・作業療法部門の運営に関するリスク管理について習得する。 ・多職種連携と卒後教育の重要性を理解する。 ・卒後のキャリアデザインについて考えるようになる。		
授業計画	第1回：　医療職に求められるコンプライアンス 第2回：　ヒューマンエラーについて （インシデント、アクシデントレポート） 第3回：　労務管理について（人権保障とハラスメント） 第4回：　労務管理について（勤務体制と労働時間） 第5回：　多職種連携、地域連携 第6回：　卒後教育（自己研鑽と職能団体の利用） 第7回：　卒後のキャリアデザインについて 第8回：　振返り（レポート提出）		
教科書	特になし（随時資料を配布予定）		
参考書	斉藤秀之、能登真一：リハビリテーション管理学　医学書院　3,600円＋税 大町かおり、高木綾一：リハビリテーション職種のキャリア･デザイン 株式会社CBR　2,800円＋税		
成績評価の方法・基準	提出されたレポートで採点します。		
授業の留意点･授業外の学習活動など	資料を配布し、授業を進めます。		
教員紹介	総合病院等で作業療法士としての実務経験をもつ教員が作業療法部門の管理・運営、後輩育成について講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	3学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	専門分野演習	作業療法学科教員	4単位・120時間
授業の概要 （授業の目的）	作業療法士として必要となる専門的知識についての造詣を深め、自らの作業療法士像の構築を図る。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	各分野での専門的知識を理解し専門用語を用いて説明することができる。		
授業計画	【専門分野】 ・作業療法概論 ・基礎作業学 ・作業療法評価 ・身体領域作業療法 ・精神領域作業療法 ・発達領域作業療法 ・高齢期領域作業療法 ・関連法規、制度　など		
教科書	必要に応じてプリントを配布		
参考書	これまでに使用した教科書、資料など		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	授業スケジュールは、授業開始前までに予定表を配布します。予習・復習などの自己学習を徹底的に行ってください。		
教員紹介	身体領域、精神領域、高齢者領域、発達領域、すべての領域にわたりアドバイスができるように、それぞれの領域で臨床経験のある作業療法学科の全教員が授業に関わります。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	3学年	通年	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	臨床実習ケーススタディ	作業療法学科教員	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	・実習で得られた経験を自分自身の学びとし、今後の成長につなげる内容や方法を模索する。 ・作業療法の思考過程が理解できる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・実習中の課題について説明できる。 ・実習に向けた準備ができる。 ・実習で得られた経験を学びとして言葉にすることができる。 ・実践されている作業療法士の思考過程を説明することができる。		
授業計画	第1～7回：　模擬症例による事例検討 ・作業療法の思考過程の確認 ・実習課題の確認 第8～15回：　総合臨床実習報告会		
教科書	特になし		
参考書	適宜紹介する		
成績評価の方法・基準	実習前レポート（50%）、実習報告書（50%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	疑問点や気づきなどを積極的に伝えていく姿勢が必要です。 MTDLPを用いて作業療法の思考過程を確認します。MTDLPの活用について事前学習をして臨んでください。		
教員紹介	各教員が実習先と密に連絡を取り合いながら、有意義な実習になるよう支援していきます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
作業療法学科	3学年	前期・後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ	各臨床実習施設指導者 作業療法学科教員	各9単位・405時間
授業の概要 （授業の目的）	・実習指導者の指導の下、対象者の作業療法（評価・治療）を経験し、その記録・方法など、作業療法士としての一連の流れを習得する。 ・臨床現場における作業療法士としての役割と機能を学ぶ。 ・作業療法士としての管理・運営業務を学ぶ。 ・医療人、職業人としての態度を身につける。 ・実習で学んだ一連の作業療法アプローチを報告し、教員や他学生よりフィードバックを受けることで、卒後の臨床に繋がるよう理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・医療人、職業人として適切な態度を身につけ、行動できる。 ・作業療法士の役割を認識できる。 ・対象者の状態に沿った評価・治療を体験する。 ・対象者について適切に報告（口頭･記録）ができる。 ・対象者の状態、環境に配慮することができる。 ・対象者の変化を把握し、対応できる。 ・施設指導者や教員のアドバイスを受け、資料作成ができる。 ・適切な枠組み（書式･報告時間など）に基づき、真摯な態度で報告できる。		
授業計画	〔9週間を2期〕5月～7月Ⅰ期　7月～9月Ⅱ期 ・上記の期間で医療機関において評価・治療を体験する。 ・経験した事について、「デイリー／模擬カルテ」に記録、報告する。 ・実習指導者より指導を受ける機会を持つ。 ・学内にて報告する機会を持つ。 「臨床実習　報告会」		
教科書	各自必要と思われるものを持参すること。		
参考書	各自必要と思われるものを持参すること。		
成績評価の方法・基準	各領域の実習指導者による評点、口頭試問、学内報告会での評点を合わせ、総合的に判断します。		
授業の留意点･授業外の学習活動など	各実習先の規則に従い、指導者および対象者に敬意を払い行動すること。		
教員紹介	実習施設では臨床経験5年以上の指導者（臨床実習指導者講習会修了者）、学内では作業療法学科教員が個別に担当します。		